

白日高歩（著）
川原克信（執筆協力）

呼吸器外科手術のすべて

池田徳彦

東医大主任教授・外科学第一講座

白日高歩先生の『呼吸器外科手術のすべて』がこのほど医学書院から出版され、僥越ながら書評を述べさせていただく機会を得たことを誠に光栄に感じております。本書は題名にふさわしく、新旧も含め、呼吸器外科に関するあらゆる技術と知識が網羅され、加えて、一挙手一投足まで直接手ほどきを受けているように、理解しやすい内容であることを強調させていただきます。白日先生が多くの後進の育成に当たられ、その蓄積された指導経験の賜物と感銘を受けました。

本書は白日先生がお一人で執筆されたため、多数の執筆者の共同作業にありがちな内容の重複や相違がなく、一貫して明解、簡潔な記載となっています。そして膨大な呼吸器外科の内容を的確な視点の基に50項目に分割し、合計556点の質の高いイラストを用いて、特に手術の山場となる点、合併症回避に留意すべき点に関しては、非常に丹念な記述がされています。

外科は普遍的な基礎的手技と日進月歩の新しい分野が混在しながら進歩していきます。従来の手技の熟練

のみに満足していたのでは、いつの間にか時代に取り残されてしまいます。しかし、基本的な手技の習得なしには新たな分野への挑戦は不可能でもあります。したがって、これからの呼吸器外科医にはオールラウンドにあらゆる手技を身につけることが望まれます。われわれは定型的な開胸手術はもとより、早期癌に対する胸腔鏡手術や縮小手術、進行癌に対する拡大手術、感染性疾患や合併症に対するリカバリー手術など、日常遭遇するどのような状況においても対処できる技術と知識を持たねばなりません。

本書では定型的な肺葉手術、各種区域切除、拡大手術、胸腔鏡手術などあらゆる項目が網羅されていますが、それぞれの項目に軽重はなく、すべてが必要にして十分な内容で完結され、経験の長短を問わず呼吸器外科医を満足させるものと確信します。

同じ術式でも開胸と胸腔鏡下では術者から見た術野は異なりますが、それを十分に再現した実践的なイラストとなっており、術前のシミュレーションに最適と考えます。

また、分岐部切除再建のように体験の機会がめったにない術式に際しては、今までに培われた技術を応用し、一段階上のレベルの局面に対応しなければならないこともあります。本書を術前に一読すれば著者に直接指導を受けたと同様に手術手順が整理されるでしょう。臨床的には難渋する膿胸の解説も詳細であり、各種術式の手技とポイントが細部に至るまでわかりやすく記述されています。

通常の手術書では往々にして省かれてしまう細かな事柄も、大事なものは丹念にイラストを用いて説明がなされています。例えば出血に対する対処法も胸壁、癒着部、肋間動脈、気管支動脈、肺動脈に関してそれぞれの記載があり、特に若い外科医にとっては必携の書となるでしょう。

本書は完成度の高い名著であり、臨床、後進の教育、あるいは机の上でも己の技量を磨くために最適の書として強く推薦いたします。

●A4/頁424/2012年/定価26,250円
(本体25,000円+税5%)

[ISBN978-4-260-00791-7]

医学書院 刊